

平成 27 年度 第 1 回 恵那市総合計画審議会

日時：平成 27 年 7 月 31 日（金）

午前 10 時～

場所：恵那市消防防災センター 3 階 研修室

-
1. 委嘱書の交付
 2. 会長あいさつ
 3. 市長あいさつ
 4. 会議の公開、公表について（確認）
 5. 議題
 - (1) 副会長の選任について
 - (2) 第 2 次恵那市総合計画（案）について
 - (3) 今後のスケジュールについて
 6. その他
 7. 閉会のあいさつ（副会長）

欠席委員 駒宮博男 近藤慎平 田口勝一 古山真実

1. 委嘱書の交付

■事務局（進行） 平成 27 年度第 1 回恵那市総合計画審議会を始める。今年度委員が交代している。新任の委員には、事前研修で、これまでの取り組みの状況の研修会、あるいは 4 つの部会の構成委員としてすでに活動いただいているが、本日第 1 回の審議会ということで、市長から委嘱をする。

[市長から委嘱書を交付]

2. 会長あいさつ

■事務局（進行） 会長からあいさつをいただく。

■会長 昨年から総合計画について策定の作業を行ってきた。途中で市民会議、次の世代の意見を聴くような感じになってきた。審議会としては最終段階に来ている。皆さんから、これだけは言っておきたいということがあれば、今日お願いしたい。

3. 市長あいさつ

■事務局（進行） 市長からあいさつをする。

■市長 早朝からありがとうございます。今日は恵那市で 37 度になるという。しかし、今日、青年会議所が主催する「てくてくの旅」の出発式があった。100 人の小学校 3 年生から 6 年生が、今日から明後日の 3 日間で 52km 歩く。今年で 9 回目になる。この行事は大変評判がいい。100 人の定員がすぐいっぱいになる。恵那市の子どもたちはチャレンジする心を持っている。

今日は委員を委嘱した。平成 28 年 6 月 25 日までの任期で願います。

2014 年の平均寿命は男性が 80.5 歳で世界第 3 位、女性は 86.83 歳で世界第 1 位。日本人の長生きすること、恵那市民の平均寿命が延びている。人口シミュレーションも後ほど話す。

今実施している総合計画は平成 18 年からスタートし、今年度で最終段階を迎える。金額ベースで現在 88.1%の進捗だ。総合計画がこれほど高い実施率であることは過去になかった。合併するとき新市まちづくり計画を合併協議会が作り、それがベースとなって第一次総合計画になった。合併の条件ということで、それを推し進めることが合併後の恵那市の大事なこととしてきた。その結果だと思う。

昨日、連合岐阜の東濃地域協議会の皆さんと毎年懇談しており、昨日懇談し、こういう話があった。恵那市は高齢化率が東濃で 1 位だと聞いているが、高齢者が多いということは若者の負担が増えるということで、そういうことに目を向けてほしい。そうでないと若

者が出ていくということだ。なるほどと思った。それも考える必要がある。

今日はこれまで部会、プロジェクトチームで検討した基本構想、基本計画の案をまとめてもらったものを検討する。市としては、8月6日から13地域で地域懇談会をする。通常秋だが、今年は早めにやり、基本構想、基本計画を配って意見をいただこうと考えている。

4. 会議の公開、公表について（確認）

- 事務局（進行） 本日の会議は公開とし、会議録もホームページ等で公開する。
議事に入る。西村会長に進行をお願いする。

5. 議題

(1) 副会長の選任について

- 会長 議題は3つある。まず副会長を選任する。先年度からやっていただいた三宅委員が、串原の事情で交代したので、今欠員となっているのでお諮りしたい。
- 事務局（進行） 委員の互選ということになっている。意見を賜りたい。
- 委員 事務局側としてお願いをするという案があるなら発表してほしい。
- 事務局（進行） 地域自治区副会長の阿部委員をお願いしたい。

[拍手する者あり]

(2) 第2次恵那市総合計画（案）について

- 会長 事務局から説明を求める。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 審議会としては、今年3月に今報告があった、現状の課題について議論した。3月の時点で残っていたのは、目標設定と進行管理、それに連動を実現するための少子施策についての関連付けについて、考え方について意見交換をしたが、再整理という課題が残っていたので、事務局で説明があったように、目標値と施策の関連付けについて報告を受けた。

各部会を開いていただいた。大きく3つ、実質的には4つの部会があるので、それぞれの分野については、部会で意見交換をしていただいたものが反映してあると考えている。

意見があれば発言してほしい。

- 委員 分かりやすくいいと思うのが、地域を維持するための入学児童数 450人という

のが具体的だということ。そのために、子育て世代の定住移住を促す施策や子どもを安心して育てる施策を充実させないといけないと思うが、13 ページの課題解決のための施策で、多子世帯（子どもが3人以上いる世帯を中心に）という文章が気になる。子どもが3人以上というのはハードルが高い。もう一つ、今日配布された市民意識調査の報告書を見ると、15 ページに、近年の出生率低下や少子化の理由は何かという問いに、子育てや教育への経済負担、結婚年齢が高くなってきているというのが1、2位になっていることや、11、12 ページの独身、既婚者の人に聞いたもので、家族を養う収入がないというのがそれぞれ23%、13%であったり、子どもを希望するというのが3人という人も多いが2名という人も多く、それを総合的に考えると、3人ではなく、1人目から充実した支援を具体的にした方がいいと思った。3人というのは時代に合わない。

■会長 部会あるいは事務局から説明してほしい。

■事務局 部会では特に課題として上がっていたもので、その中で特に、一人親世帯の人も踏まえた経済的な負担の軽減ということで、この書き方については検討したい。

■委員 初めて参加して、地域を預かっているのは地域協議会として、50 ページ、地域自治力を高めるというところに書いてあることに注目していた。計画全体も、地域というのが一つのキーワードになっていると思う。そこで、まだまだ、確かに地域自治区条例があって、地域は協議会、自治区がやっていくということは、知られているようでまだ知られていないと思う。そういったことで、もうそろそろ、市の憲法と言われる自治基本条例を、この10年間でどこかで創っていく必要がある。その言葉が出てきていない。

■会長 部会あるいは事務局から、どうか。

■まちづくり推進部長 自治区制度をさらに醸成していきたいと記載している。これまで10年経ち、2年前ぐらいから自治区制度について、関係13地域で検証していただき、課題、問題点を整理した。それに対して、望ましい制度のあり方を検討する中で、今年4月から自治区会長会議という形で、自治区全体の施策のありようを見直し、28年度に向けての助走期間として取り組んでいただいている。今ご提案のあった、新たに自治基本条例を制定してはどうかということは、今回の制度改正の中で、これまでの自治区条例の中では、地域協議会という協議体を設けて、市長の諮問に対して答えるとか、市長に建議するという組織だけだった。その事務局は振興事務所だった。今回新たに、自治区会長を置くことと、さらに、執行機関として運営委員会を置く。その体制を整えていただいている。順調に、当初我々が求めている姿に移行する段階で、改めて自治区条例に自治区会長と運営委員会の機能だったり、組織の編成の内容等々については規定を設ける必要があると思っている。改めて自治区基本条例となるのか、あるいは現行の自治区条例の改正も含め、早急に自治区会長会議に諮って検討したい。

■会長 全国いろいろなところで自治基本条例があり、数も増えてきているが、その多く

は地域自治区を持っていない。恵那市は地域自治区を一般の制度として導入しているので、地域自治区を育てていくということとのかかわりで整理しないといけない。全国的にやっているパターンをそのまま導入しても機能しないと思う。地域自治区制度の醸成をしながら、運営も試行しながら、それを基本条例という形に再整備すると判断されれば、制定に向かうと理解してほしい。現場での力をしっかり付けて、それをさらに引き上げるためには基本条例が必要であるということなら、検討に値すると思う。

■委員 確認したい。課題解決のための施策で、感じたこと。11 ページ、施策、事業の担い手というところで、「行政のみが担うのではなく、各企業、各種団体等、それぞれの主体が協力、連携によって進める」とうたっている。各項目の課題解決のための施策を見ると、ハード的な見方ですべてが表現してある。行政が全部やってくれるんじゃないかという見方もしてしまう。ソフトをどういう形で捉えていくか心配だ。

行政ばかりでなく、市民がかかわるところもあるし、進めていくに当たって、ソフトの主体性をどういう形でこの総合計画を達成するために捉えているか。要は担い手については、そこを主体性をもった取り組みをしないとうまくいかない。それについて、どう進めるか確認したい。

■会長 審議会で、目標値はこういうことだが、それを実現させるプロセスの問題がある。そういうところでは、協働、連携というもので実現していくという、手法にしてはそういうことだ。でも、そのことによって達成しなければいけない目標値がある。行政サービスなり行政目標値はこういう整理になると思う。おっしゃっているのは、市民のまちづくり意識の向上というようなものを目標値にしろということか。

■委員 そうではない。極端な言い方だが、トップダウンとボトムアップというのがある。こういう事業を進めるに当たりトップダウンだけではだめだ。市民、団体等がどう主体的に取り組みができるかを心配している。

■まちづくり推進部長 協働の意味は、協働作業をするということではなく、協議する、話し合いする、課題に対してお互いに役割分担を確認し合うというのが本質的な意味だと私は解釈している。それぞれ施策について今説明した。たとえば、14 ページに安心して働けるというのがある。その中に、子育て支援企業の登録企業数がある。企業にこういう相談をしながら、安心して働ける企業側での子育て支援に尽力いただけないかという話もある。また、快適の部分で、地域の有償運送の提案がある。36 ページ、移動手段を重視する。もちろん基幹的な路線は市が整備、いわゆるバス運行をするが、周辺部は皆さんで担ってほしい。ただ、担うにしても、現状のボランティア的取り組みでは体力がないので、受益者として負担してもらおう。地域で負担しながら地域の中で担い手を作る。まさにこれが地域で主体的に取り組んでいただくことだ。ただし幹線道路は市が補完する。企業、地域で取り組んでもらうことと、それと行政がどう取り組むかを、協働で協力し補完し合う。そ

の形を示したのが 11 ページだ。

■委員 総合計画案の各基本施策に目標数値がある。一方で全国平均があったり、一方でちょっと低いから 10 ポイント、6 ポイントだったという数字が上がっている。それは全国平均を取るの正しいのか、10 ポイント上げるのが適正なのかというのがよく分からない。その説明がないといけない。全国平均でも、東京都、大阪府という大都市と、岐阜県高山市のように広いところがあり、全国平均を取るの正しいのかなと思う。

人口の問題は非常に大きいと思う。その対策として、妊娠から子育てという話がある。私は非婚率の改善をここに取り上げていただきたい。市民意識調査の中で、こういう理由で独身だと話されたが、結婚そのものをしてほしいと思わないとか、思える相手がいない、出会いの場がない、収入がないなど、いろいろは理由がある。しない人なりの理由付けをする。ただ社会全体として、商工会議所の青年部の人とこの話をしたとき、そういう企画をしてほしいという話もあった。市でもそれらしい組織があつて、やっていると思う。そういうことを大々的にやりながら非婚率の改善を地域全体でしていく必要がある。

企業誘致ということで、行政も、固定資産税の減免や補助金などをやっている。移住した人に対する、ハード面以外の補助的なものはあるのか。固定資産税の減免があるなら市民税の減免もあり得るのではないか。

■会長 目標値の妥当性、合理性、根拠について。今日のところはこれで出させてもらい、62 ページで個別分野の施策との整合性を、もう一度行政内部で再検討してほしい。それで見直しを図るときに、それぞれの分野の施策の目標値の妥当性を見直しも含めて検討してほしい。必要があれば第 2 回目で、次回の総合計画審議会で修正値が出る。行政内部の各部署で目標値の妥当性については検討してほしい。

3 番目のは企業誘致、住民移住のことは、現状を説明してほしい。

■事務局 社会動態、企業誘致で減免はあるが、移住については、新たに住宅を造って移住した人に定住奨励金を交付している。22 年度から。去年は 47 件 60 名近くが助成を受けている。27 年度は空き家改修の補助金も、市民が使う場合も補助金を出す。移住は、固定資産税の減免を 3 年間行っている。市民税までは行っていない。昨年移住した人のアンケートを取っている。6 割以上が東濃エリアから移住している。もう少し違う視点での移住定住を進めるべきなのか考えていきたい。

■会長 合計特殊出生率について。坪井委員から何かないか。まち婚などの取り組みのことをイメージされていると思う。その開かれる回数や参加人数を目標人数とすることはなじむかどうか。取り組みとしては検討してもいいと思うが。今後、個別計画との整合性を図る際に、そういう趣旨を生かして、個別計画でのアクションプログラムの中で検討してほしい。

■委員 13 ページで、2 点ほどはつきりさせておくことがある。放課後の子どもの居場所。

児童クラブ、教室との連携が上がっているが、学童保育の常設、時期的開設もあるが、取り組む事業においては保護者負担が異なっている。恵那市の学童保育は公設民営。行政では、公設というのはどこまでか、民営はどういうことをやるのかという考え方が整理されていない。安心して働けるには、子どもの学校から自分が引き取るまで、学童保育があるが、この金額が高くて、何人も預けるなら働かない方がいいという問題がある。居場所問題を明記する以上、位置付けをはっきりさせる必要がある。

もう一つ。現行の中学生までの医療無料化がある。医療は一つの柱であり、それを中心にさまざまな子育ての事業を連携することが必要。将来的な財源問題があるが、中学校までとあるが、高校まで延伸することが、移住定住に関して、あるいは 450 名という位置付けについて、整理が必要だ。

17 ページ。健康維持、増進。恵那市民でも各種保険に入っている人があるが、国民健康保険での健康管理が大事。特定健診は恵那市の 40%ということなので、目標指標には、特定健診の受診率の向上を上げる方がよい。

■会長 医療サービスの提供の中でか、子育てのところで再編するか。言われていることは的を得ていると思うが。事務局の考えは。

■まちづくり推進部長 国民健康保険、特定健診はすぐ出るが、ほかの医療保険の場合はどうかということもあるので、併せて検討する。

放課後児童クラブ、放課後児童対策についての議論を昨日も庁内で行っていた。子育て総合プランを策定している。公設の定義。行政はどこまで公設とするか、議論している。学童保育の場所の設置、保護者の保育料の負担、指導員の確保の 3 点を、公設でどこまで市が手当てするか。民営でどこまでやるか。そういうお互いの役割分担を整理する。

■会長 子育て総合プラン、総合計画の個別分野プランとの整合性の問題だと思うので、第 2 回まで持ち帰り、検討作業を頑張って行っていただき、次回に必要な目標値を設定するということもあり得るということにする。

今日は事務局案を承認していただく。検討課題は次回までに行政内部で。これから地域自治区との意見交換の場を持つので、そこで聞いた意見を含めて次回に反映させる。目標値や表現が変わることもあり得る。

パブリックコメントを求めるので、宿題は宿題として、文章としては本日のものを承認してもらう。

■会長 長期財政計画について、事務局から説明を求める。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 発言を求める。制度の問題でもあるし、理解が難しい。合併 10 年後ぐらいから、合併に伴う優遇措置がだんだんなくなる時期に、前半の 5 年間で相当する。ただ、当初 30

億円弱が5年後に下がるはずが、政府も上乗せをしてかさ上げしたので、30億円程度、恵那市としては、300億円の予算規模なので、10%に相当するが、そこまで削減する必要がなくなっただけのことだ。が、一方で節約する必要がある。選択と集中で、必要などころに公共事業を行うが、そういう規模、時期なのか、財源を見て考えないといけないという問題提起だ。

以上で第2次恵那市総合計画（案）について、本日の事務局（案）を審議会としては、パブリックコメントの文章としては了承する。

(3) 今後のスケジュールについて

■会長 今後のスケジュールについて、事務局から。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 この原文について市民意見を伺うパブリックコメントの期間が1カ月ぐらいある。併せて地域自治区での意見交換がある。それが8、9月。そこに出てきている意見を反映させるべきだとすると修正を加えて、次回9月30日にこの審議会で修正提案となる。行政内部でも総合計画の個別分野の計画とのすり合わせもされる。62ページの地域計画と総合計画、個別計画と総合計画の再調整の作業を行っていただき、それを第2回に反映させるべきものは反映させる。審議会としては9月30日を最終案の検討に当てたい。それで良いか。

では、それで今後行う。なお、部会は、大きく地域計画、地域自治区等々から、基本的な大きな問題についての提案、修正がある場合には、関連する部会で臨時にでも開き、全体審議会に反映させる。そうでないなら、審議会へという流れでいいと思っている。私も地域懇談会には何か所か回りたい。雰囲気を感じた上で部会を開くべきなら願います。

本日の議題は終了した。

次回は9月30日10時から第2回総合計画審議会を開催する。最終確認を含め、10月15日に答申する。

7. 閉会のあいさつ（副会長）

■副会長 長時間ありがとうございました。前回までの副会長の三宅さんが任期終了した。代わりに明智地域協議会から参加している阿部です。

人口シミュレーション、平成32年に増減0にするという説明だった。私は団塊の世代で、2025年に75歳を迎える。あと5年で80歳になる。かなりハードルが高い目標値だ。今回

の審議会の総合計画に同時並行で進めてきた地域計画の内容を見ると、どの地域も人口減少問題を最重要課題に上げている。同時に、子育てを、どこの地域も上げている。それぞれの地域で特色ある活動をする中で、何とかこの数値を達成するよう努力してもらいたい。

もう審議会も最後なので、最後までお知恵を拝借したい。本日はありがとうございました。閉会する。

〔 閉 会 〕